

応急手当で 高校生挑戦

西条で
大会 正確さチームで競う

西条市内の高校生を対象にした応急手当の競技大会が8月30日、同市神拝の市総合福祉センターであった。市内7校の13チーム計39人が出場し、心臓マッサージや自動体外式除細動器(AED)による救命措置の正確性やチームワークを競った。

大会は学校での突然死を防ぐため、高校生に知識や行動力を身につけてもらおうと、市が2024年から毎年開催し3回目。

生徒は3人一組で119番通報や人工呼吸、AEDの使用などの課題に挑戦した。生

徒は周囲の安全や傷病者の状態を声をかけ合って確認し、手拍子で心臓マッサージのリズムを取るなど、協力して取り組んだ。

看護師を目指している西条高3年の越智心央奈さん(17)は「胸が5センチほど沈む強さを意識して胸骨を圧迫した」。丹原高2年仲原陽翔さん(17)は「周囲の人への声かけが大切だと学び、万が一の事態に遭遇した時は落ち着いて実践したい」と話した。(伊藤義樹)

上位チームは次の通り。
①2120B(西条高)②komatsuいのち繋ぎ隊(小松高)③タンバラ☆BOYS(丹原高)



応急手当を競う大会で心臓マッサージに取り組む高校生